

「例えで確認 方向変換」

～人生をエクステンジ～

マルコ 4:33～34

■ 想像と意志

今年のテーマは「宥和」から「言責」に向かっています。私たちの行うすべての行動は、言葉から始まります。間違っただけの言葉は、言葉に基いた行動が伴わなければなりません。蒔くべきところに種を蒔き、預かった種を大切に保ちましょう。今日は人生をエクステンジするということをマルコの福音書から見ていきましょう。

私たちは想像によって意志が変えられてしまいます。だから意志に基づく想像をしないとイケないです。意志をやめさせる想像をしてはいけないのです。神様は私たちが決断し、行動しようとするときに御業をあらわしてください。それはあなたが最後に喜ぶためです。マイナスに向かい、死に向かうのではなく、喜びに向かって行って最後ゴールインするのです。是非、想像と意志を整えていきましょう。

■ たとえで説明

「イエスは、このように多くのたとえで、彼らの聞く力に応じて、みことばを話された。たとえによらないで話されることはなかった。ただ、ご自分の弟子たちにだけはすべてのことを解き明かされた。」(マルコ 4:33～44)

イエス様は、「神の国」を「たとえで説明」していました。光と闇(救いと滅び)を分けるために語られました。奥義とは、私たちの心の中に起こる悪だくみです。そんな奥義にも神様は奇跡をもたらされるのです。悪のような行動が神様に向く時、エステル記のように、からし種の人生が奇跡に変わるのです。

■ 解き明かす

「たとえ」を用いて「すべてのことを解き明かされた。」「解き明かす」とは、民に与えられた、神からの教えを指し示した言葉、要するに忘れていたものを思い起こさせるためにたとえをもって話したのです。

「解き明かす」という言葉がどこで使われたかを申命記から見ると、みおしえの確認は、向きを変えて出発し、神の示した、約束したところに行けと言われていました。たとえ話はすべてこのことを言っているのです。アダムとイブは罪を犯し、裏切つて悪だくみをし、エデンの園を追い出されたカインとアベルは自分の息子を殺してしまうという悪だくみをし、そしてその子孫はひどい人生を送る中で神様は必ずからし種の木が大きく生長するような奇跡をもたらします。神様の言われるすべての話の中に、創世記の大失敗、人間の悪だくみ、苦しい環境、それによって小さなからし種が奇跡を起こし、大きく生長するというたとえ話が全部そこに向かっているのです。

民に与えられた神の教えを指し示した言葉「モーセよ、みおしえの確認をしなさい。」モーセはみおしえの確認をするために話し合いを始めました。イエス様がたとえ話で解き明かしたのも、みおしえの確認でした。だから皆さん、思い出してください。あなたが子どものころ想像した夢や思いを。もしエステルがきらめていたら、ユダヤ人が救われることはありませんでした。彼が出てきたすべてのたとえは、深い意味があって、一つ一つに神様の深い計画があるのです。私たちは向きを変えて出発しなければなりません。あなたが信じて描いた夢はもうあなたに渡されているからです。

■ 三浦綾子

「塩狩峠」や「氷点」の筆者、三浦綾子は、20代前半に結核に罹り、病床で過ごしました。その中で光世さんは彼女の光になりました。彼は、結核でもう死ぬかもしれない彼女の病床に聖書を持って訪ね、「あなたは将来必ずすごいことをする人だ」とみことばを伝え続けました。彼女は光世さんの言葉によって、自分の人生に何かがあるのかもしれないと思いました。最初は信じられなかったけれど、彼はそれを語り続け、三浦さんはそれを信じた。そして彼女が書いたのが、「氷点」だったのです。三浦さんは朝日新聞の賞を受け、そこから一躍有名になり、クリスチャン作家となりました。そして、苦しい現状の中に奇跡が起こって、一つの種まきによって変えられるという書物を多く書きました。

■ 向きを変えて出発せよ

イスラエルの民にとって、エジプトを出てモーセと旅をしているとき、大河ユーフラテスまで行けと言われてました。民からすれば、羊飼いのいない羊のように、荒れ果てた荒野でどこに住んだらいいかも分からない中で、たとえで話されるだけでした。その理由は、イエス様が十字架に架かるという、最大の犠牲を払う計画があったからでした。人々には分からなくてよかったのです。なぜかと言うと、自分が代わりにやるから、あなたは深いことは分からなくてよい、でも、深いことがあったことは教えたかったのです。あなたたちの人生も同じです。全部自分ができるわけではありません。エジプトを出てさまよい、長い間荒野にとどまった中で、向きを変えて出発しなさいと言われてたのです。あなたはからし種のように、大きくならないと思うかもしれないけれど、後にはあんなに大きな木に生長するような奇跡が起きると預言しています。あなたはそれを信じるのか。と聞いているのです。このように、聖書は必ずあなたの人生にかかわります。そしてあなたが決断することで、奇跡を受け取るのです。みなさんが選ぶかは自由です。あなたは、この1年はどう進むのか、自分の生き方をどのようにエクステンジするのか、向きを変えて出発せよと言われてます。もう同じ言葉を使うなと言われてます。もしあなたが信じて選ぶなら、神の栄光を見ます。しかし選ばないなら、去年と同じ年があなたに訪れるだけです。してはいけないことは一つです。していいことは神様の前に用意されています。神様は、理由をつけて決意したことをあなたの想像によって戻してしまう行為に戻るなどと言っています。

■ さいごに

強盗と悪口はどちらが罪深いですか。言葉はどれだけ大きいことでしょうか。私たちは本当にエクステンジしなければなりません。私たちの内側が、言葉が、行動が変えられなければ神様がどれだけあなたに恵みの種を与えても、奇跡は起こりません。あなたが祈っていることがあるなら、それをするためにどうすればいいか想像してください。からし種の種は、まかなければ奇跡は起こりません。種をまいて生長すると、鳥が住める木になると例えています。あなたには、すばらしい愛と計画が種として任せられていて、その種をまくのなら生長するのです。三浦綾子さんは、結核で薬もなかったけれど、彼の言葉で回復し、今も作品を書き続け、愛の犠牲によって人生が変えられるということをお伝えすることができました。十字架はたとえです。そのたとえによって、いちじくのたとえ、からし種のたとえが成就しました。あなたの人生で今通っている道は、不運な出来事ではなく、緻密に計算された計画なのです。種がまけなくなるまで、納屋に入れておかないでください。種に力なくなるまで放っておかないでください。人生をエクステンジしなければなりません。うまくいかなかったのなら、やり方を変えなければいけません。相手ではなく、自分が変わるんだというのがエクステンジです。一人一人に神様が語る、さまざまたとえ、どうでもいいことのように思える出来事、誰かから言われた言葉。それをマイナスの種にしたまま植えないでください。そして祈って、神様の前にエクステンジしていきましょう。

(要約者: 浅野 恵子)

(2023年1月15日)